

経営比較分析表（令和2年度決算）

和歌山県 九度山町

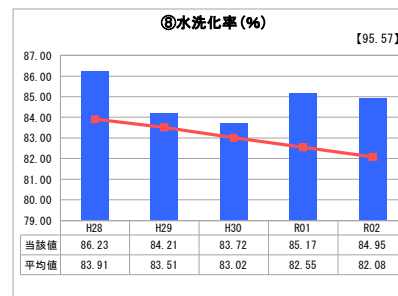
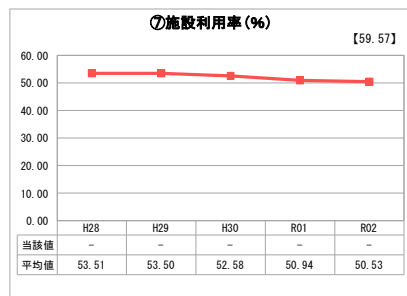
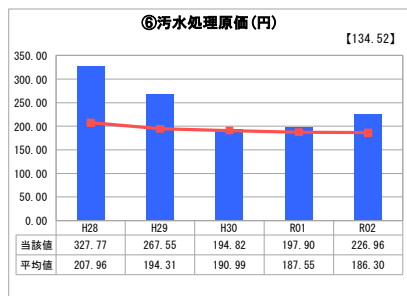
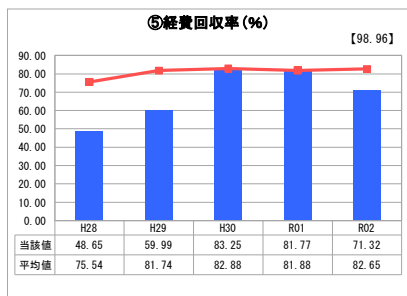
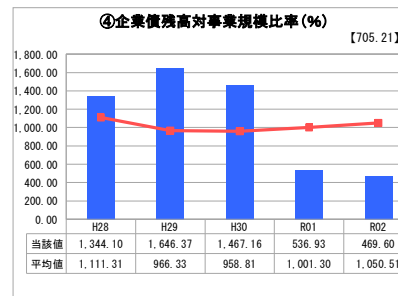
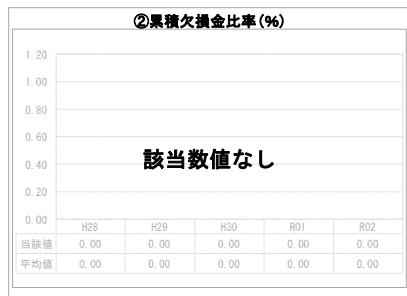
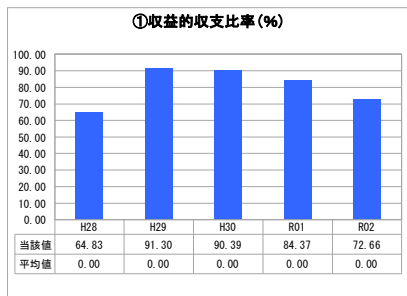
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ [※] 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	67.53	95.60	3,000

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,076	44.15	92.32
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,731	0.89	3,068.54

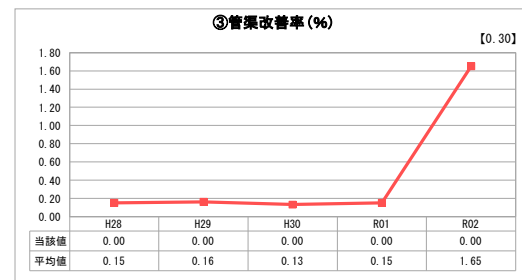
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

九度山町の公共下水道事業は、収益的収支比率①は、平成29年度まで改善傾向にありましたが、平成30年度以降は段階的に悪化傾向にあります。水洗化率⑧は類似団体並みですが、汚水処理経費については汚水処理原価⑥が高く、かつ、経費回収率⑤も100%を下回っており、不足分は一般会計からの繰入金で賄っているのが現状です。

さらに、県の紀の川流域下水道維持管理負担金の汚水処理単価についても段階的な増額が見込まれ、ますます一般会計への依存度が増加する状況にあります。

なお、事業規模に対する企業債残高対事業規模規律④は、整備が着々と完了し、近年大幅に減少してきています。

2. 老朽化の状況について

九度山町の公共下水道は、平成2年度から汚水管渠を整備し、現在のところ耐用年数を超える管渠は存在しませんが、マンホールポンプの更新については今後の課題となります。

全体総括

今後、人口減少及び少子高齢化により、経営状況が厳しくなることが予想されます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。